

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-21 ことばと文 化	20130587030101	●ことばと文 化II(数と表 現)	和	E	平岡 賢 治	1年,2年,3年,4年	後期	火 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-21 ことばと文 化	20130587030501	●ことばと文 化II(音楽と 表現)	和	E	西田 治	1年,2年,3年,4年	後期	月 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-21 ことばと文 化	20130587030901	●ことばと文 化II(多文化 理解とこと ば)	和	E	橋本 健 夫	1年,2年,3年,4年	後期	火 5	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-21 ことばと文 化	20130587031301	●ことばと文 化II(文字と ことば)	和	E	鈴木 慶 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-21 ことばと文 化	20130587031701	●ことばと文 化II(脳とこ とば)	和	E	橋本 健 夫	1年,2年,3年,4年	集中 (前)	時間割 外	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-21 ことばと文化**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587030101	科目番号	05870301
授業科目名	●ことばと文化II(数と表現)		
編集担当教員	平岡 賢治		
授業担当教員名(科目責任者)	平岡 賢治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	平岡 賢治		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	khiraoka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部3F 313		
担当教員TEL	095-819-2323		
担当教員オフィスアワー	金曜日3限		
授業のねらい	数は文化の重要な構成要素であることを、その歴史等を通じて理解する。また、数学的な考え方は多様であり有用であることを、生活の様々な場面で活用されており、これらを数学的な視点から学ぶ。		
授業方法（学習指導法）	講義を中心に行う。授業内容により演習や課題を課す。毎回出席カードで授業理解や質問などの記述を行う。		
授業到達目標	数の表記とその歴史、数の表現のよさについて、文化的視点に立って理解することができる。自然界にあるものを数を使って考察したり、円や正方形などの図形を数で考察し、そのよさを理解することができる。 数や数列、分数などのよさやその意味についてり米することができる。 身の回りにある数を取り上げ数学をことばとして用いるよさを理解することができる。		
授業内容	回	内容	
	1	ガイダンス	
	2	数の歴史	
	3	数と形	
	4	数とパターン	
	5	整数の性質	
	6	ピタゴラス数	
	7	フィボナッチ数列	
	8	正多面体の数理	
	9	折り紙と数学	

	10	円の数理
	11	単位分数と連分数
	12	和算と算額
	13	算数に挑戦
	14	魔方陣
	15	日常にある数理
	16	試験
キーワード	数の起源、数の活用、数と生活	
教科書・教材・参考書	配布資料を中心に授業を行う。 参考資料・文献は適宜紹介をする。	
成績評価の方法・基準等	試験60点、課題20点、出席カード20点とし、合計60点以上を合格とする。	
受講要件（履修条件）	高校の数学Ⅰ・AおよびⅡ・Bを履修していることが望ましい。数や数学に興味・関心を持ち、授業中にしっかり考えることが必要である。	
本科目の位置づけ	自然科学の基礎科目であり、数が活用されてきたことを数学の観点から考察する。	
学習・教育目標	数の歴史や数が言葉として活用されてきたことに理解を深めることができる。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	数に興味関心を持ち、課題や演習に積極的に取り組むこと、授業では集中して考えることが大切である。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-21 ことばと文化**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587030501	科目番号	05870305
授業科目名	●ことばと文化II(音楽と表現)		
編集担当教員	西田 治		
授業担当教員名(科目責任者)	西田 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西田 治		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	osamu-n@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館5 1 6		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	昼休み（事前にメールにてアポイントを取ること）		
授業のねらい	音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて自らの言葉で語ったり書いたりすることができる。また、それを他者に伝え共有することができる。		
授業方法（学習指導法）	ディスカッション フィールドワーク 講義 プレゼンテーション ドラミングなど		
授業到達目標	音および音楽の表現力・影響力について体験的に理解し、それについて言葉で語ったり書いたりすることができる。 自らの体験や考えを分かりやすく相手に伝えることができる。		
	音の風景（サウンドスケープ）について体験的に理解する活動を行う。音楽以前の音そのもの、そして沈黙に焦点を当て、私たちがいかにそれらから影響を受けているかを体験的に理解する。 最終的には、受講生全員で長崎のいい音の風景を選定し、冊子としてまとめ、大学外に対して発信することを目指す。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション グループ分け	
	2	ドラムサークル1 音と沈黙の体験	

授業内容		そしてその言語化
	3	ドラムサークル2 音と沈黙の体験 そしてその言語化
	4	サウンドスケープとは 長崎いい音の風景20選 紹介
	5	フィールドワーク1 長崎いい音の風景20選めぐり
	6	フィールドワーク1の振り返りとシェア
	7	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業1 フィールドワーク2 推薦する場の選定
	8	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク2の振り返りとシェア
	9	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク3 推薦する場の選定
	10	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 フィールドワーク3の振り返りとシェア
	11	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 仮決定と検討
	12	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 選定作業 本決定
	13	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 広報活動 冊子の作成
	14	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 広報活動 冊子の配布
	15	長大生が選ぶ長崎いい音の風景20選 総括 活動を通しての学び
	16	サウンドスケープデザインとは何か ――音の風景を言葉で語ることの難しさと楽しさ
	キーワード	サウンドスケープ 音の風景
教科書・教材・参考書	<p>参考文献は以下の通り。</p> <p>サウンドスケープ―その思想と実践 鳥越 けい子 (著) 出版社: 鹿島出版会 (1997/03)</p> <p>サウンドスケープの詩学 フィールド篇 鳥越 けい子 (著) 出版社: 春秋社; A5版 (2008/3/25)</p> <p>音さがしの本 <<増補版>> リトル・サウンド・エデュケーション</p>	

	R.マリー シェーファー (著), 今田 匡彦 (著) 出版社: 春秋社; 増補版 (2009/1/15) 世界の調律 サウンドスケープとはなにか (平凡社ライブラリー) R.マリー・シェーファー (著), 鳥越 けい子 (翻訳) 出版社: 平凡社 (2006/5/10)
成績評価の方法・基準等	・レポート・提出物 70パーセント ・出席・講義への参加度 30パーセント
受講要件 (履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-21 ことばと文化**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587030901	科目番号	05870309
授業科目名	●ことばと文化II(多文化理解とことば)		
編集担当教員	橋本 健夫		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 健夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 健夫, 楊 暁安, 劉 卿美, ベー シュウキー		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部（335号室）		
担当教員TEL	095-819-2338(携帯：090-2587-5670)		
担当教員オフィスアワー	毎日のお昼の時間（12：00～12：50）（予約して来室のこと）		
授業のねらい	国際社会で活躍する人にとって多文化理解能力は必須である。本授業においては、中国・韓国・マレーシアの文化を取り上げ、その特徴を理解するとともに、相互理解を深める方法について考える。		
授業方法（学習指導法）	受講生一人一人が、中国・韓国・マレーシアを身近なものとして感じることができるよう、予め各国を調べ、疑問点を抽出する。それらを各国出身の教員が取り上げ答えるとともに、各国の文化を紹介し、理解を深める工夫を行って授業を進める。		
授業到達目標	他国の文化の特徴を理解するとともに、共生のための相互理解のあり方を考える力を身につける。		
授業内容	回	内容	
	1	本授業がどのように展開されるかについてのオリエンテーション（全教員参加）	
	2	「私とマレーシア」（マレーシアについて調べたことをもとに各班で知りたいことをまとめる）（担当：橋本教員）	
	3	マレーシアの文化（担当：ベー教員）	
	4	マレーシアの教育（担当：ベー教員）	
	5	マレーシアとの相互理解（各班からの意見をもとに理解を深める）（担当：ベー教員）	
	6	「私と中国」（中国について調べたことをもとに各班での疑問点をまとめる）（担当：橋本教員）	
	7	中国の諧音語と中国文化（担当：楊教員）	
	8	中国の語順と中国文化（担当：楊教員）	
	9	中国との相互理解（各班からの意見をもとに理解を深める）（担当：楊教員）	
		「私と韓国」（韓国について調べたことをもとに各班での疑問点をまとめる）（担当：	

	10	橋本教員)
	11	韓国の文化とことば① (担当：劉教員)
	12	韓国の文化とことば② (担当：劉教員)
	13	韓国の文化とことば③ (担当：劉教員)
	14	韓国との相互理解 (各班からの意見をもとに理解を深める) (担当：劉教員)
	15	マレーシア, 中国, 韓国のどれか一つを取り上げ, 相互理解の方策を語る。
	16	
キーワード	多文化理解, 相互理解	
教科書・教材・参考書	各国の様子を知らせるDVDや映画	
成績評価の方法・基準等	課題 (40点) + 授業参加 (30点) + プレゼンテーション (30点)	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ	モジュール「ことばと文化」の中で各文化を理解するためのことばの重要性を知る。	
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-21 ことばと文化**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587031301	科目番号	05870313
授業科目名	●ことばと文化II(文字とことば)		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 慶子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 慶子		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	keiko-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部514研究室		
担当教員TEL	095-819-2302		
担当教員オフィスアワー	月V		
授業のねらい	日本語表現のうち、文字言語によるものの特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。		
授業方法(学習指導法)	問題に基づいたグループ学習とその結果の発表 → 質疑応答 → 学習報告書の提出		
授業到達目標	1) 自分自身の「文字とことば」力を客観的に認識することができる。(①) 2) 日常文書の特徴を理解し、実際に書くことができる。(③⑤) 3) 文字言語による日本語表現の特徴を俯瞰することができる。(⑪⑫⑬)		
	回	内容	
	1	受講基礎調査 グループ編成	
	2	受講基礎調査をふまえて 「文字とことば」力の自己診断	
	3	ケーススタディ1-1 「手書きと入力」 モデルケースを使った演習	
	4	ケーススタディ1-2 「手書きと入力」 グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	
	5	ケーススタディ1-3 「手書きと入力」 グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	

授業内容	6	復習
	7	ケーススタディ2-1 手紙を読む
		モデルケースを使った演習
	8	ケーススタディ2-2 手紙を読む
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	9	ケーススタディ2-3 手紙を読む
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	10	復習
	11	ケーススタディ3-1 手紙を書く
		モデルケースを使った演習
	12	ケーススタディ3-2 手紙を書く
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	13	ケーススタディ3-3 手紙を書く
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	14	復習
	15	文字言語による日常表現の特徴
16	試験	
キーワード	日常生活、文字言語、コミュニケーション	
教科書・教材・参考書	『美しい日本語表現』池田悠子著 双文社 『書字のススメ』石川九揚著 新潮社 『わかりあえないことから』平田オリザ著 講談社現代新書	
成績評価の方法・基準等	3回の欠席で失格。12回以上出席の場合に、下記で評価する。60点以上で合格とする。 プレゼンテーション、質疑応答 [10%] 個人レポート [20%] グループレポート(学習報告書) [40%] 試験 [30%]	
受講要件 (履修条件)	個人で行うこととグループで行うことの両方ができること。	
本科目の位置づけ	全学モジュール科目「ことばと文化」の選択科目(モジュールII)である。	
学習・教育目標	「ことばと文化」の領域の知識と技能を活用することができる。	
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-21 ことばと文化**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	集中（前	曜日・校時	時間割外
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587031701	科目番号	05870317
授業科目名	●ことばと文化II(脳とことば)		
編集担当教員	橋本 健夫		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 健夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 健夫, 橋本 優花里		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部335号室		
担当教員TEL	095-819-2338,090-2587-5670		
担当教員オフィスアワー	お昼の時間（12：00-12：50）予め在室を確かめてください。		
授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ことばを制御する脳の構造を学ぶ ・ 種々の脳の機能不全がことばの産出や理解に及ぼす影響の違いについて知る。 ・ ことばの問題を克服するための手段について学ぶ 		
授業方法（学習指導法）	土・日曜日を利用した集中講義形式で行います。講義を中心に行いますが、講義に関連した実験やグループワークやグループディスカッションを随時取り入れていきます。また、障害様相を把握するため、視覚教材の視聴も行ないます。各授業終了時には、質問や感想を書くためのコミュニケーションカードの記入を求めます。コミュニケーションカードは、次回の授業での振り返りや皆さんの授業の理解度の確認に利用します。		
授業到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 脳とことばの関係を理解できる。 ② 脳の機能不全によることばに関連した障害様相について理解できる。 ③ コミュニケーションを獲得するためのリハビリテーションや訓練について理解する。 ④ 障害と健常の垣根を越えて、授業で学んだことをよりよいコミュニケーションを目指した実生活に生かすことが出来る。 		
	回	内容	
	1	オリエンテーション ことばのない世界を体験する	
	2	ことばの理解に必要な器官を考えよう	
	3	脳の特性について知ろう	
	4	脳の構造について知ろう	
	5	脳の発達とことばの発達—幼児期	
	6	脳の発達とことばの発達—児童期以降	
	7	障害について考える	

授業内容	8	脳を損傷すること—高次脳機能障害とは
	9	左右半球機能差と脳梁離断症候群について学ぶ
	10	失語症, 失書, 失読について学ぶ
	11	認知症とことば
	12	発達障害・脳性麻痺とことば
	13	コミュニケーションを(再)獲得するために—リハビリテーション
	14	コミュニケーションを(再)獲得するために—グループ訓練
	15	コミュニケーションを(再)獲得するために—アルテクの利用
	16	試験
キーワード	ことば, 脳損傷, 認知	
教科書・教材・参考書	教科書は指定しません。講義内容に即した資料を事前に配布します。授業で紹介する障害の様相をより詳しく理解するため, 視聴覚教材を利用します。	
成績評価の方法・基準等	授業時のグループワークやグループディスカッションの成果物(20%), 予習復習を含むクイズ(30%), コミュニケーションカードの提出を含む, 授業への積極的な参加・貢献度(20%), および定期試験(30%), から総合的に判断して成績評価を行います。	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		

